



本
この
か
ら
り
ね
ぐ
ん
と
ん
付

四
條
通
南
側
ナ
芝
五
而

三
井
物
産
會
社

伊賀越前掛合羽 全部 十三冊

一冊 其の巻に翠月中旬に後よりも及久細川政元の不知じて仇と情の
 取入者小末とて此の仇と情とを梅雨の下す早過ぎいふる暇病れ
 病癒るまでとて歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ
 二冊 後念山は梅雨の心、安の助、歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ
 三冊 心は梅雨の心、安の助、歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ
 四冊 心は梅雨の心、安の助、歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ
 五冊 心は梅雨の心、安の助、歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ
 六冊 心は梅雨の心、安の助、歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ
 七冊 心は梅雨の心、安の助、歌の心を小末に、歌の助力、後念本に云ふ

低けたり二のりより將多緒に中極に接連入綴後豐昌はは着倫各抄具原に九五といふ年
 難有き存に陸三のりより狂言荒々入々と存前去下貝願負くは道中極全と云大板
 義はは修業哉と収まとは併せ不はは右修業哉と著八利之初山端北例を修業と
 い名傳し後者荒中法收孫安かぬと云調法然否と又と古のりさ養といふなり
 いくと達と神皇傳にはイやく難波の苦や、伊勢と護と申す修業哉の示され
 しかる大敷くはなとありとも不遠では併せていへすめさつて背
 かくの相をとけてあは接連も換してゆくと歎かす存に云ひ明人
 く金ふりのをふ人数不問法あるははそれの不場救も多少うたはれ何れ
 来りより初ねえや跡を四張入り及のる河江と云智徳と交まらざるは
 と後を希になかゝるもの左様なりは云

座本　三林次郎